

授業の内容

本講義では経営学で発表される定性的研究、特に事例研究の特徴について理解を深めることを目的とします。社会人大学院で修士論文を執筆する学生の方の中にも事例研究を選択される方がいると思います。「事例研究とは具体的にはどのようなものか」から始め、「事例研究を行う場合や評価する場合、どのような点に注意しなければならないか」を受講生の方に考えてもらい教室で議論します。

評価

出席点（座席に座っているだけでなく積極的に発言している状態）

一コマ＝5点 ×8＝40点

最終日テスト 教室で回答（オンラインの講義の場合、ワードで書いたものを小川のメールアドレス宛に授業終了時間に送信）。

課題は授業開始時に発表します。

＝60点

合計 100点満点

授業スケジュールと課題図書

1回目 6月6日 事例研究とエスノグラフィー

1時限目

事例研究と言っても社会人の方々の想像するものとは異なり、学術的に「ケース・スタディ」に分類されるものはとても限定的な方法論によって書かれたもののことを指します。そこで第一回目の最初では、事例研究とはどのようなものであるかを感覚的にわかってもらうために今回は学者以外が書いた現実の記述を読んでいただき、教室で議論していただくことにします。

課題: 以下の課題図書を読んで、授業の前に二つの作品の現実に対する接近の仕方に差があるか、あるとしたらそれは何かを考えてみてください。

課題図書

(1) 沢木耕太郎『キャパの十字架』文春文庫

同じ内容のものを動画にしたものがネットで見れるようです。

沢木耕太郎『運命の一枚』<https://www.dailymotion.com/video/xxcgip>

(2) 山際淳司「江夏の21球」（山際淳司著『江夏の21球』角川新書所収）

こちらはこの作品を基に動画にしたものがアマゾンで購入できるようです。

DVDで動画（DVD）

NHK特集 「江夏の21球」NHKエンタープライズ

またネットでも見れるようです（2020年1月27日現在）。

<https://www.youtube.com/watch?v=ETzd6CGt-ao>

2時限目 内部者の視点 vs. 外部者の視点

課題：以下の課題を読んで（1）と（2）の経営現象を記述する仕方に差があるか、あるとすれば何かについて考えておいてください。

課題図書

- （1）日経ビジネス編『鈴木敏文 孤高』日経BP 特に2章4節+コラム
日経ビジネスの記事ですがセブンイレブンの経営をエスノグラフィ的に記述したものとして読んでみてください。
- （2）小川進・水野学「検証コンビニ神話」組織科学 2004年
小川進「コンビニのシステム優位」小川進『競争的共創論』白桃書房1章所収。
セブンイレブンの競争優位を事例研究として明らかにしようとするものです。

2回目 6月13日 経営戦略・技術管理論における事例研究
経営戦略論と技術管理論の分野で有名な事例研究を読みます。

1時限目

課題：以下の図書を読んで事業戦略をどのように理解するかについてどのような枠組みがあるかを考えておいてください。

課題図書

Henry Mintzberg “CMR forum: the “Honda effect” revisited “ California Management Review (1996) (MLを使って入手方法をお伝えするようにします)

参考図書

- ・経験曲線を活用した戦略論を理解するのに有名な論文です。

バゼル他「PIMS:ROIは市場シェアに従う」DHB 2008年11月号

(https://www.bookpark.ne.jp/cm/contentdetail.asp?content_id=HBSP-75103で購入可能)

・(1) の論文の出発点になる報告書です。

Boston Consulting Group, Strategy Alternatives for the British Motorcycle Industry,
London: Her Majesty's Stationery Office, 1975, 2 vols.

以下の URL でダウンロードできます。

<https://www.gov.uk/government/publications/strategy-alternatives-for-the-british-motorcycle-industry>

・ミンツバーグの戦略の見方を理解するには超オススメの論文です。

Henry Mintzberg “Crafting Strategy.” Harvard Business Review. July- August (1987).

(翻訳が以前、ダイヤモンドハーバードビジネスレビューに出ています)

http://partnersinperformance.us/wp-content/uploads/2015/06/Mintzberg_Crafting_Strategy_HBR.pdf

2 時限目

課題：この時間はバリバリの学術研究の事例研究を読みます。学術的に認められる事例研究とはどのような特徴を持っているのかを考えておいてください(課題図書は『技術とイノベーションの戦略的マネジメント(上)』に翻訳が掲載されています)。また(1)と(2)の論文は同じ現象を違った書き方で書いたものですが、どのように違うかを考えておいてください。

課題図書

(1) Clayton Christensen “Customer Power, Strategic Investment, and the Failure of leading firms.” Strategic Management Journal.” 1996, March.

(2) Bower & Christensen “Disruptive Technologies: innovation: Catching the Wave.” Harvard Business Review 1995. Jan-Feb.

3 回目 6 月 20 日 日本発の経営学

3 回目は日本発の世界に通用した経営学の事例研究を読みます。どうして彼らの研究は世界から注目されたのかを議論します。

課題：

1 時限目は野中・竹内の本、2 時限目は藤本隆宏氏の本を読んでもらいます。有志の方にそれぞれ中身についてまとめていただき、それぞれの研究の(2)問題意識(2)発見物(3)自分が感じるおもしろさ、について発表していただきます。

課題図書

- (1) 野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』東洋経済新報社 1-3章 (特に3章)。
- (2) 藤本隆宏『製品開発力』ダイヤモンド社
- (3) 藤本隆宏他『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣アルマ (特に1章と3章)

4回目 6月27日 振り返りと討論

4回目はこれまでの3回を通じて学んだことをクラス全体で議論していきます。定性的な手法で経営学を研究して論文にしていくためにはどのようなことを考えないといけないと思うか、議論します。取り上げる教材は学術的には厳格な手法をとっていないものもありますが、「実務家が手掛ける経営現象の研究」を考えるために参考になるものだと思います。

1時限目

課題：

課題図書を読んで経営事例から何らかの発見をしていく方法について気づいたことを整理して授業に参加してください。

課題図書

- (1) 楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社
- (2) Ogawa and Piller “Reducing the risks of new product development.” MIT Sloan Management Review 2006. Winter.

2時限目に課題を出してその場で回答を書いてもらう最終試験をします。

全体を通した定性的研究を扱った参考図書

- (1) R.K. イン (近藤公彦訳) 『ケース・スタディの方法』千倉書房
- (2) グレイザー&ストラウス『データ対話型理論の発見』新曜社
- (3) 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社
- (4) クリフォード・ギアーツ「厚い記述」『文化の解釈学 I』岩波現代選書所収。